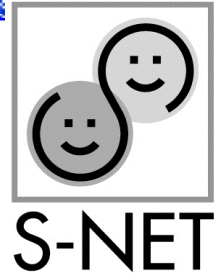


KSK湘南ふくしネットワーク

オンブズマン(新聞)

広報47号

編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本直也
 事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階
 電話・FAX：0467-85-6660 直通電話090-4937-4904 定価30円
 ホームページ：<http://www.npo-snet.com> eメール：info@npo-snet.com



2016年度 権利をまもるシンポジウム 報告

3人の素晴らしい登壇者に拍手！

2月18日の土曜日午後に、茅ヶ崎市役所分庁舎で当会主催の「権利をまもるシンポジウム」が開催されました。今回は、「今より“もっと”素晴らしい支援者となるために」をタイトルに、市民目線・ダイバーシティな支援を語ってくださる方を探してご登壇をお願いしました。

基調講演の鈴木敏彦さん(和泉短期大学児童福祉学科教授)には、昨年4月から施行された障害者差別解消法についての市民向け解説とその意義をお話いただきました。鈴木さんは、神奈川県障害者自立支援協議会の会長を務められ、その他にも藤沢市の障害者差別解消支援地域協議会代表や、相模原市の障害者施策推進協議会会長などを担っておられます。社会福祉士でもあり、福祉サービス利用者の権利擁護を専門分野とされています。

「不寛容な社会に未来はない」「(色々な人がいて)ごちゃまぜの社会が健康な社会である」「障がい者は社会の生きづらさの最先端にいる人たち」「だから障がい当事者の声が、『共に生きる社会』の原動力となる」「そして、自分自身(私達みんな)が将来自由に生きていけるように、この活動(共生社会の推進)が必要である」。

明快で力強く、また誰にもわかる言葉で語られた基調講演に、参加者の多くから、「難しい内容なのに、とてもわかりやすかった」という感想が寄せられました。



鈴木敏彦教授と手話通訳者



続いてシンポジウムに移り、まずはスタイリストの廣田純也さんの、華麗なビューティフォトを見ながらのスピーチがありました。

廣田さんは、茅ヶ崎市東海岸南にある美容室「Hearts」を運営する若きスタイリストです。本業の傍ら、高齢者や障がい者の施設等に出向いてボランティアで美容を行い、現在、美容に福祉を加味するべく、精神保健福祉士資格取得を目指して勉強中だそうです。廣田さんは今回の企画を打ち合わせの中で、「自分の活動は権利擁護とつながる、と感じた」とのことでした。今回は、東京コレクションで2015年に障がい者モデルと健常者モデルを同じ舞台上で起用し、世界中から注目を浴びたファッションブランド「tenbo」のご協力をいただきました。その「tenbo」の服を着てメイクし元気になったアルビノ(先天性白皮症。生まれつきメラニン色素を生成する遺伝情報が欠落し、体毛・虹彩・皮膚などの色が白化してしまう病気)の女性のお話など、様々な障がいのある方が美容によって心身共に変化していったというお話が印象的でした。



廣田純也さん

3人目の登壇者、理学療法士でもある菅原健介さんは、藤沢市にある団地の中で高齢者の小規模多機能事業を実施している、「株式会社ぐるんとびー」の中心的存在です。パワーポイントで彼の活動の原点となったデンマークの生活スタイルや考え方を紹介していただきながら、「『させる』から『したい』を支える支援へ」をメインテーマに、様々な事例について語っていただきました。「より良く



菅原健介さん

生きることに向かって、『正しい』ではなく、常に『最適』を探していく」「『困っている』を助け合う」というお話は、本当に心に響きました。中でも、40年以上もプールを楽しんできた高齢の男性が、「俺は死んでもいいからプールに入りたいてって言うてるのに、そういうことを止めるのがお前たちの仕事なら、介護なんてやめちまえ！」と発信したことを受けて、リスクを踏まえながらプールに入る支援を実施した後、「したい」ことができた後の嬉しそうな男性の笑顔がスクリーンに映し出されました。支援の原点とは、やりたいことを下支えすることです。そしてそこに向かって障壁を取り除いていくことが、その人を元気にする、本当の「権利擁護」だと強く感じさせられました。

そしてシンポジウムのハイライトとして登場した2人のモデルさんが、廣田スタイリストの手で本当にステキな変身をとげ、会場の大きな拍手につつまれました。いつもは自分でお洒落することもない知的障がいの若い女性でしたが、「きれいになる」は、イコール「自分を肯定する」「自分が大切にされる」ことにつながることを感じていただけたかと思います。障がいのある人が幸せな気持ちになることを、眼で見て感じる事ができた、素晴らしい権利擁護の実演でした。



今回は総計88名の様々な分野の方々にご参加いただきました。またご来賓として、ご後援をいただきました茅ヶ崎市より夜光広純副市長、茅ヶ崎市社会福祉協議会から矢島啓志事務局長、認定特定非営利活動法人NPOサポートちがさきより益永律子代表にお越しいただきました。参加者のご職業やご所属は様々で、一般の市民の方々をはじめ、障がいのある方とご家族、親の会会員、社会福祉協議会職員、臨床心理士、サービス提供事業所管理者・職員、保育園園長、民生委員、保健師、地域包括支援センター相談員、地区社会福祉協議会ボランティアセンタースタッフ、社会福祉士、市民活動サポートセンター職員、ボランティア団体スタッフ、養護学校教諭、消費者団体連絡会職員、市議会議員、等の方々にご来場いただきました。

茅ヶ崎市より手話通訳と要約筆記を派遣いただき、バリアフリーなシンポジウムとなりました。

参加者アンケートでいただいたご感想を、いくつかご紹介したいと思います。

- ◇ 支援や権利擁護の根幹を改めて学びました。研修会・学習会などに参加する機会は多いですが、「美容」や「まるごと支え合い」など、切り口が新鮮であったという間の2時間でした。
- ◇ 暗いニュースが多く、将来の見通しも重苦しく感じる昨今でしたが、若い講師の方々の生き方に触れ、気持ちも晴れやかになり元気をもらいました。
- ◇ 福祉関係者以外の一般市民の方々も参加されていてよかった。
- ◇ 内容の濃さはそのままに、『わかりやすい版』の講演でした。
- ◇ モデルの変身がステキでした。自分もオシャレしたいと思いました。
- ◇ 私たちに希望をくださる内容であったと思います。その人らしさを大事にするということ、当たり前のことが大事にされていいんだと、改めて気づかされました。



今回のシンポジウムは、教授・スタイリスト・福祉サービス事業者と、異なる3分野の方々がいかにコラボレーションして下さるかが楽しみでもありましたが、想像以上に互いに響きあってくださいました。深く感謝申し上げます。

廣田さんと菅原さんのお話を受け、鈴木さんはシンポジウムの最後に、お2人の支援を、「ADL（生存を支える福祉）」から、「QOL（生活を支える福祉）」への転換だと位置づけ、廣田さんの実践を「BEAUTY FOR ALL」、菅原さんの実践を「HAPPY FOR ALL」だと絶賛されました。

すべてがすべて人のためにある！

共生社会、早く実現させたいですね！

(シンポジウムコーディネーター 上杉桂子)



オンブズマン活動から

(佐川美智子・武山育子)

ちがさきの木魂は2015年6月に開所されました。松林が多く残る湘南らしい住宅街の中に建ち、喫茶「木木」(きき)も併設されています。神奈川県「バリアフリー地域まちづくり賞」を受賞したということで、地域にも温かく受け入れられた障がい者の通所の場となっています。

私たち二人は2016年4月から毎月訪問するオンブズマンを担当しています。利用者の障がいの程度は様々で、身体障がいの重い方では看護師が二人、介護者が一人の3人体制で支援している方もいます。発達障がいの方も多く、発語の難しい方もいます。利用者の思いをどのようにすれば受止められるか、サポートする側はどのように対応しているか、オンブズマンとしては利用者・サポーターのどちらからもお話をうかがえるような方法を模索しました。



いや誤嚥しないような工夫について聞いたり、利用者の様々なエピソードもうかがえます。多くの方が完食されていますが、利用者のリクエストによるメニューの時は楽しくおいしそうに召し上がっています。鶏の唐揚げやスパゲッティなど若者らしいリクエストだなと感じました。

午後のイベントは感動することが多く、利用者スタッフ両方のコラボが成功していると思います。利用者の絵による飾り付けが雰囲気盛り上げ、ハロウィーンの際は利用者・スタッフ皆がペイントしているので、私たちも顔に傷を作ったり、血を流してみたりしてペイントしました。私たちの一人は室内のゲームに参加、一人は仮装して鉄砲道沿いを歩き高齢者施設でプレゼントをもらいました。他にも仮装した子どもたちが歩いていましたので手を振って交流するなど、近隣の皆さんとも交流できたと思います。

午後からのイベントが多いことをうかがったので、利用者がほぼ揃う11時に訪問して面談の要望のある方からまずお話をうかがいます。その後、利用者やスタッフの皆さんと一緒に施設の昼食をいただきます。その都度、昼食費をお支払いしていますが、イベントに応じて料金が変わり昼食費の仕組みも少しわかりました。昼食タイムが一番利用者・スタッフの両方と仲良くなれるチャンスです。スタッフから利用者の食べ物の好き嫌

視覚・聴覚に障害のある女性がピアノコンサートを開催した時は、「がんばって」と励ますメンバーさんがいました。地域のピアノ講師のボランティア(台湾出身)さんも出席し、練習で進歩した演奏に感動した父親が涙でお礼の言葉を述べていました。3人介護体制のメンバーさんが職員とゲームをして楽しんでいることも知りました。

2階のベランダで春の陽光の中、寝転がってお昼寝している人、職員とゲームをして遊んでいる人のいる風景もまた、施設での暮らしの一面です。

賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員会費
 - ・個人 年額 ー〇 1,000円 (ー〇以上)
 - ・法人 年額 ー〇 5,000円 (ー〇以上)
- ◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください
 - 郵便振替口座番号：00210-9-75496
 - 口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

